

表 4086 2014年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別 (腹膜透析患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	2,337 (81.5)	339 (11.8)	96 (3.3)	36 (1.3)	21 (0.7)	40 (1.4)	2,869 (100.0)	2,152	5,021	0.36	1.07
腹膜透析 (APD) (%)	1,349 (79.4)	193 (11.4)	63 (3.7)	28 (1.6)	25 (1.5)	40 (2.4)	1,698 (100.0)	1,141	2,839	0.49	1.41
腹膜透析 (CCPD) (%)	574 (80.4)	88 (12.3)	33 (4.6)	8 (1.1)	2 (0.3)	9 (1.3)	714 (100.0)	367	1,081	0.35	0.97
合計 (%)	4,260 (80.7)	620 (11.7)	192 (3.6)	72 (1.4)	48 (0.9)	89 (1.7)	5,281 (100.0)	3,660	8,941	0.40	1.18
記載なし (%)											
総計 (%)	4,260 (80.7)	620 (11.7)	192 (3.6)	72 (1.4)	48 (0.9)	89 (1.7)	5,281 (100.0)	3,660	8,941	0.40	1.18

数値下の括弧内は行方向の合計に対する%です。

個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

\*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy